

女性活躍推進フォーラム 第3回

テーマ発表「最優秀」を表彰

人事、総務関係の幹部らも聴取

人材育成委員会主催の「第3回女性活躍推進フォーラム」が2月10日、東京・日本橋三洋グループビル8階会議室で開かれた。フォーラムには第1回(昨年9月11日)、第2回(同11月13日)に引き続き、ホール企業を中心に女性正規社員19人(1社1人)が参加した。

グループワークは今回が最終回。5グループに分かれ、2つのテーマ(「キャリアプランニング」「ワー

面に押し出した情報発信・広報 ② 業界の女性活躍推進に関連した情報を収集し、データを企業に配信、企業の人財マネジメントをサポート ③女性社員と企業とで、交流と教育を目的としたフォーラムを年1回開催する。効果として、ダイバーシティの促進、従業員の企業に対するロイヤリティの高まり、社員のスキルアップなどが期待できる」としている。

グループの企画概要は、「業界の内と外ではイメージのギャップが存在する。それは正しい情報が伝わっていないから。社会に対して、働く女性の姿を通じてマイナスイメージの払しょくとプラスイメージのブランディングを図る。活動内容は①女性社員を前

19人の女性社員はこのあと、それぞれの企画を自社に持ち帰り、自社の風土を変えていくことが最終目標となっている。そのために、この日は社員を派遣した企業の人事、総務関係等の担当者、幹部を招待し、発表を聴いてもらった。参加者たちは「今回参加してみても、業界のことを考えるきっかけになった」「自社に帰ってから、今回の内容をどんどん取り入れて、より良い環境をつくっていききたい」「ふだんは男性の中で仕事しているの、それとは違う同性同士で仕事をする楽しさを味わえた。またこういう機会があるといい」

最優秀賞のエグループ(右・谷口久徳副会長、左・前田竜人人材育成委員長)



とそれぞれ感想を述べた。

青山聖氏が講演 「広告の明確な戦略を」

実務の後押し企画「販促、広告制作のワークショップセミナー」で、アーク・フロント(株)青山聖氏が「魅力的な広告をつくるために」と題して講演した。青山氏は「広告をつくる大前提として「そもそも誰も広告を見たいと思っていない。だからどうしたら見えないのかを考えねばならない」とし、ブランディング(商品や店





ピーチした。杉本氏は、業界の問題点の本質はイメージだとして、女性をターゲットにイメージを変えていくこと、そのためには企業側も女性の管理職を増やして、女性が働きやすい会社のイメージをつくること、一方で業界に働く女性たちも自身のキャリアプランを立て、その中で積極的に管理職をめざしていこうと呼びかけた。

谷口久徳副会長 社内に風土を作って

最後に、担当理事の谷口久徳副会長が締めめのあいさつを行った。同氏は「人材育成の観点から昨年度までマネジメントカレッジを8回にわたって開いたが、各社の対象社員が一巡したようなのでいったん休んでいる。しかし、これから業界を変えていくためには、様々な角度で様々な概念を取り入れて他の産業に負けない強い人材

舗・サービスや企業自体の持つ思想・哲学について好感を持つてもらおう」とマーケティング（顧客の創造）の重要性を説いた。市販の商品を題材に広告作りの実習を行い、最後に魅力的な広告づくりの3か条として「ブランドデザイン、マーケティングの両側面で明確な戦略を立てる」「アンテナを高め、アイデア力を高める」「楽しんでつくる」を挙げた。とくに「魅力を生み出すには、自分が楽しむこと」を強調した。

杉本志保里氏 自身で管理職めざせ

女性社員の講演として、参加者の一人、ピーアークホールディングス(株)杉本志保里氏(副店長)がス



締めの挨拶をする谷口久徳副会長



販促、広告制作について講演する青山聖氏



参加した女性社員の中から杉本志保里氏のスピーチ

この半年間のフォーラムでの出会いを大切にして将来につなげ、活気ある業界をつくり上げていってほしい」と述べた。
このあと場所を変えて交流会が開かれ、参加者たちはにぎやかに歓談し、人脈のネットワークを確認しあった。

5グループの参加者

(順不同、敬称略、(株)略)

Aグループ▶入野谷華枝(マルハン)、森月綾美(善都)、鈴木麻衣(オータ)

Bグループ▶大西沙樹(東和産業)、宮城彩奈(日進)、川上静佳(ヒカリシステム)、湊奈津希(ジャパンネットワークシステム)

Cグループ▶藤森由紀(日拓ホーム)、稲葉圭(プロテラス)、杉本志保理(ピーアークホールディングス)、高橋佳澄(平成観光)

Dグループ▶井上美鈴(ABC)、佐々木文字(グローリー)、村上友美(NEXUS)、松本直子(ウエスタンコーポレーション)

Eグループ▶森谷文子(ニラク)、小椋理恵(ジャパンニューアルファ)、沖優子(プロバ)、高橋純子(千歳観光)

を育成しなければならぬ。その象徴になるものとして、今年度から女性活躍のテーマに絞った。女性社員を派遣していただいた企業の方々には、今回の各グループの提案内容をぜひ自社で活用していただけたらありがたい。そのような風土を社内につくってもらいたい。参加した女性社員の皆さんは、

遊技機委員会

2月16日
本部会議室
出席委員20人ブースのロゴは「超パチ」
「フェスタ2016」展示試打機は40台

「ニコニコ超会議2016」（4月29、30日、千葉・幕張メッセ）に日遊協が出展するブース「パチンコ&パチスロフェスタ2016」について、タイトルロゴ、来場者アンケートの回収方法などを検討した。タイトルロゴを「超パチ」に決めた。これに沿ってロゴのデザインを作成する。試打用に展示する遊技機は2月16日現在、パチンコ16台、「ちよいパチ」10台、パチスロ14台、計40台という構成が報告された。WEBやファン雑誌を対象に、フェスタの事前・当日・事後のPR協力を検討した。

「ちよいパチ」3段階で

日工組の複数メーカーが開発中の「ちよいパチ」について、進捗状況等が報告された。「ちよいパチ」は、40分の1未満の高確率に特化し、大当たりを体感でき、より少ない遊技料金と短時間で遊べる遊技機で、4円パチンコの新たな市場開拓をコンセプトにしてい



パチンコ&パチスロフェスタの内容などを検討した遊技機委員会

る。日工組では当面、第1弾「30分の1未満、ヘソ賞球5個以上、シンプルなゲーム性」、第2弾「40分の1未満、ヘソ賞球5個以上、シンプルなゲーム性」、第3弾「40分の1未満、ヘソ賞球5個以上」の3段階で各社がまとまって出し、その後、各社ごとに「ちよいパチ」の範疇で多様な遊技機を出していくという展開を考えている。

第1弾は5月末から

販売スケジュールについては、

伊勢志摩サミットによる自粛期間が明けると5月末から6月初めでの第1弾販売が有力となっている。これとは別に、日遊協は「パチンコ&パチスロフェスタ2016」に「ちよいパチ」コーナーを設け、普及に向けて支援する。また、ホール企業全体に対しては、遊技産業活性化委員会の遊技機検討ワーキンググループの中で日工組が報告する。

恒例の日遊協主催「遊技機アワード2016」については、今回は諸事情により中止を決めた。

恒例の日遊協主催「遊技機アワード2016」については、今回は諸事情により中止を決めた。

依存問題PT兼WG

2月9日
本部会議室
出席委員等7人、オブザーバー5人

啓蒙活動の強化確認

「自己申告P」9店で導入

遊技産業活性化委員会の依存（の

めり込み）問題ワーキンググループ（WG）を兼ねており、全日遊連、全商協、回胴遊商からもオブザーバーが出席した。

「依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」の従業員教育用DVDの完成が改めて報告された。既に新入社員やアルバイトの教育の一環として使っているとの報告が委員からあった。

自己申告プログラムの導入状況が報告された。昨年12月下旬から1月下旬までの1か月間で東京、神奈川、千葉、静岡で9店舗が導入していた。

ガイドラインや自己申告プログラムについて、引き続き啓蒙啓発活動を推進するため、他の専門委員会などの連携を検討していくことを確認した。

流通勉強会

当面の課題で情報交換

第14回流通勉強会が2月3日、本部会議室で開かれ、東京都・関東支部の景品卸会社3社の代表、庄司孝輝会長、堀内文隆専務理事、茂木欣人風営法PTリーダーらが出席した。賞品流通に係る当面の課題について協議した。



ガイドラインや自己申告プログラムの啓蒙啓発を検討した依存問題PT兼WG

人材育成委員会

2月10日
日本橋三洋グループビル
出席委員11人

16年度は4回開催へ「女性活躍フォーラム」

3月1日の(株)リクルート「S U P E R スタートアップ★L I V E」(千葉・幕張メッセ)に日遊協として出展する「ぱちんこ産業合同説明会」ブースについて、講演者、呼び込み、アンケート、ノベルティーグッズ、企業パンフレットなどの要員、タイムスケジュールを確認した。協賛企業はホール、遊技機メーカー、設備機器メーカー、部品メーカー、通信情報処理等25社となっている。



合同説明会ブースの始めの作業を行った人材育成委員会

2016年度の事業計画を協議し、女性活躍推進フォーラム、店長・管理職能力開発講習、ぱちんこ産業合同説明会の3事業を確認した。女性活躍推進フォーラムについては、東京のほか九州地区での開催も考える。回数についても、15年度は秋からの3回開催だったが、16年度は東京地区について年間を通じての4回開催を検討する。また、新卒採用企業への応援では合同説明会以外の方法も考える。

広報調査委員会

2月5日
彩蔵池袋店
出席委員等12人

事業計画をチェック

2016年度の事業計画を審議し、基本的に15年度の事業について改善すべき点は改善し、さらに推し進めることを確認した。内容は①業界データベース ②業界情報まとめ ③パチンコ・パチスロファンアンケート調査 ④広報誌編集のバックアップ ⑤ファン雑誌・

WEBメディア情報交換会——の5事業となっている。3月18日の第6回定例理事会に提案される。

社会貢献・環境対策委員会

2月19日
本部会議室
出席委員12人

3企業が「環境」で講演

2016年度の事業計画を協議し、①「みどりのきずな再生プロジェクト」として「共生の森」の植林 ②介護・デイケアサービス施設へ向けた機能訓練用遊技機の提供 ③分煙対策——の3点について当面進めていくことを確認した。このうち「共生の森」については、5月14日に宮城県東松島市浜市地区0・49ヘクタールでのクロマツ約2000本の植林と、昨年同市矢本地区で植えた苗木に立ち枯れが多く見られるため、同地区でのクロマツ約1000本の補植を同日に行うことになっている。

委員会の冒頭と最後に、3企業のプレゼンテーションが行われた。(株)イブロンが「新電力ビジネスモデル」、(株)HRが「エコ・アイの推進」、日本たばこ産業(株)が「喫煙環境に係る規制等の概要」のタイトルでそれぞれ講演した。



プレゼンテーションを聞く社会貢献・環境対策委員会

風宮法P.T

2月26日
本部会議室
出席委員10人

撤去機等で情報共有

日工組が2月10日に出した「検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機」に関する撤去対象リストの第1弾(回収対象遊技機28型式4万8863台)について、委員会メンバー10人の動き、とくに気になる点などを聞いた。

日工組、日電協が2月1日付で制定し、4月1日付で施行する「製造業者遊技機流通健全化要綱」と「遊技機製造業者の業務委託に関する規程」について質疑応答が行われた。